

令和5年度 教科シラバス

教科	国語	科目	論理国語
単位数	2	レポート	6
教科書	論理国語（数研出版）	副教材	論理国語準拠ワーク 進研 WINSTEP 現代文2

学習目標

主体的・対話的で深い学びを通して実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的、批判的、創造的に考える力を伸ばし、言葉で伝え合う力を高める。
言葉がもつ価値への認識を深め、語彙を豊かにし、言葉を使いこなす力を身につけ、読書に親しむ態度を養い、他社や社会に対する関心を養う。
現代社会における多様な問題・題材を提示し興味関心を喚起する。

学習内容

前期（4～9月）	後期（10～2月）
(1)逆説 ・手の変幻	(4)近代と現代の視点 ・未来世代への責任
(2)具体と抽象 ・「内的成長」社会へ ・資本主義社会の本当の「豊かさ」 ・具体」から「抽象」へ (レポート①)	・〈近代〉の入り口と出口の間 ・科学・技術の歴史の中での社会 (レポート③)
(3)言葉と創造 ・添削の思想 ・国境を越える言葉 (レポート②)	(5)情報と社会 ・疑似群衆の時代 ・消費されるスポーツ (レポート④)
	(6)言葉と思考 ・日本語は非論理的か ・偶然とは何か (レポート⑤)
	(7)文章の背景 ・「安楽」への全体主義 (レポート⑥)

学習方法

デザイン・アートコース
副教材を活用して問題演習を行いながら内容の理解を深めていく。学習前後は教科書本文をよく読んで内容の確認をする。類似的文章を扱うこともあるので比較しながら読んでいく。論理的文章を扱うことが多くなるので一文一文丁寧に読み進めていく。

評価方法

デザイン・アートコース
・授業態度（出席率等も含む）・提出物・レポート評価 ・定期考査（4回）

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、その特質を理解し、適切に使うことができ、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者とのかかわりの中で、論理的に考える力や深く共感する力、伝え合う力を高め、自身の思いや考えを広げたり、深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ事故を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

令和5年度 教科シラバス

教科	国語	科目	文学国語
単位数	2単位	レポート	6回
教科書	文学国語（筑摩書房）	副教材	教科書準拠 文学国語標準課題ノート（筑摩書房）

学習目標

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、他者とのかかわりの中で伝え合う力、言葉による見方・考え方に対する意識を高めるとともに思考力や想像力を伸ばすことで心情を豊かにし、言語感覚を磨くことで実社会の充実を図る。

学習内容

前期（4～9月）	後期（10～2月）
<ul style="list-style-type: none"> ・随想・評論(1)「プラスチック膜を破って」 ・小説(1)「山月記」 <p style="text-align: right;">(レポート①)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・随想・評論(4)「死者の声を運ぶ舟」 ・随想・評論(5)「未来をつくる言葉」 <p style="text-align: right;">(レポート④)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・随想・評論(2)「メディアと倫理」 ・随想・評論(3)「記号論と生のリアリティ」 <p style="text-align: right;">(レポート②)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小説(2)「こころ」 <p style="text-align: right;">(レポート⑤)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・小説(3)「捨てない女」 ・詩歌 調べとリズム <p style="text-align: right;">(レポート③)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・随想・評論(6)「化物の進化」 <p style="text-align: right;">(レポート⑥)</p>
前期考查範囲	後期考查範囲

学習方法

デザイン・アート
授業に参加し、授業内の様々な活動を通して理解を深める。副教材を活用して問題演習を行いより深く理解する。随想・評論、小説、詩歌といった文章それぞれの特徴と、書かれた時代を意識しながら読み進めていく。

評価方法

デザイン・アート
<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察・授業態度（出席率等も含む） ・発問評価 ・レポート評価 ・定期考査（4回）

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。

令和5年度 教科シラバス

教科	国語	科目	国語表現
単位数	2単位	レポート	6回
教科書	国語表現（大修館書店）	副教材	国語表現 基礎練習ノート 2023 小論文頻出テーマ現代を知る plus 2023 小論文頻出テーマチェック&ワーク

学習目標

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

学習内容

前期（4～9月）	後期（10～2月）
伝える、伝え合う ・自己紹介ゲーム ・言葉のストレッチ体操 言葉と出会う ・言葉と表記 ※国語基礎力強化ワーク 仮名遣いのきまり／送り仮名の付け方（レポート①） ・整った文を書く ※国語基礎力強化ワーク 気をつけたい同音異義語／異字同訓の使い分け／間違えやすい漢字（レポート②） ・相手に応じた言葉遣い ※国語基礎力強化ワーク 敬語の分類と使い分け ・わかりやすい文を書く ・文のつなぎ方（レポート③） 前期考査範囲	伝える、伝え合う ・絵や写真を見て書く ・マイニュース記事を書こう ※国語基礎力強化ワーク よく使われる四字熟語／覚えておきたい慣用句（レポート④） 小論文・レポート入門 ・小論文とは何か ・反論を想定して書く（レポート⑤） 自己PRと面接 ・自分を見つめて ・効果的な自己PR ・将来の自分を考えよう（レポート⑥） 後期考査範囲

学習方法

デザイン・アート
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に参加し、さまざまな活動を通して内容の理解を深める。 ・レポート・副教材を活用して学習のまとめを行う。

評価方法

デザイン・アート
<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察・授業態度（出席率等も含む） ・発問評価 ・レポート評価 ・定期考査（4回）

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

デザイン・アートコース

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
必履修	2	6		4
教科書		副教材等		
新選 歴史総合(東京書籍)		新選 歴史総合ワークノート(東京書籍)		
学 習 目 標				
<p>○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>				
学 習 内 容				
【前期】 ○教科書は、P7～141までを学習。 ○学習の中心とレポートの範囲は以下の通り。 1章 歴史の扉 【レポート①】 1. 歴史と私たち、2. 歴史の特質と資料 2章 近代化と私たち 【レポート②】 1. 近代化への問い、2. 結び付く世界と日本の開国、3. 国民国家と明治維新、4. 近代化と現代的な諸課題 3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 【レポート③】 1. 国際秩序の変化や大衆化への問い、2. 第一次世界大戦と大衆社会、3. 経済危機と第二次世界大戦、4. 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題		【後期】 ○教科書はP142～197までを学習。 ○学習の中心とレポートの範囲は以下の通り。 4章 グローバル化と私たち 【レポート④】 1. グローバル化への問い、2. 冷戦と世界経済 【レポート⑤】 3. 世界秩序の変容と日本 【レポート⑥】 4. 現代的な諸課題の形成と展望		
学 習 方 法				
・授業で提示される課題に取り組む。 ・プリントやレポートで学習を振り返る。 ・教科書を丁寧に読み、レポートをまとめる。副教材を利用し、知識を整理したり、資料を読み取ったりする。				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
レポートの提出と評価、考査の成績、授業態度を総合的に判断して評価する。				
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度		
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。		
担 当 者 よ り 一 言				
先行き不透明な社会を生き抜く力を身に付けます。自分自身と結びつけながら学んでください。				

デザイン・アートコース

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
必履修	2	6		4
教科書		副教材等		
公共(実教出版)		公共演習ノート(実教出版)		
学 習 目 標				
<p>○現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>○よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>				
学 習 内 容				
<p>【前期】 ○教科書は、P6～99までを学習。 ○学習の中心とレポートの範囲は以下の通り。 1部 公共の扉 【レポート①】 1. 社会を作る私たち、2. 人間としてよく生きる、3. 他者と共に生きる、4. 民主社会の倫理 【レポート②】 5. 民主国家における基本原理 2部 よりよい社会の形成に参加する私たち 【レポート③】 政治 1. 日本国憲法の基本的性格、2. 日本の政治機構と政治参加</p>		<p>【後期】 ○教科書はP100～209までを学習。 ○学習の中心とレポートの範囲は以下の通り。 2部 よりよい社会の形成に参加する私たち(続き) 【レポート④】 経済 1. 現代の経済社会、2. 日本経済の特質と国民生活 【レポート⑤】 国際 1. 国際政治の動向と課題、2. 国際経済の動向と課題 3部 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 【レポート⑥】</p>		
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で提示される課題に取り組む。 ・教科書を丁寧に読み、レポートをまとめる。副教材を利用し、知識を整理したり、資料を読み取ったりする。 ・プリントやレポートで学習を振り返る。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
レポートの提出と評価、考査の成績、授業態度を総合的に判断して評価する。				
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度		
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。		
担 当 者 よ り 一 言				
先行き不透明な社会を生き抜く力を身に付けます。自分自身と結びつけながら学んでください。				

令和5年度 教科シラバス

教科	理科	科目	地学基礎
単位数	(デ) 2単位 (キ) 3単位	レポート	9回
教科書	高等学校地学基礎 (第一学習社)	副教材	ネオパルノート地学基礎 (第一学習社)

学習目標

<p>日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、自ら課題を設定し、見通しをもって観察などを行うことができる、科学的に探究する資質・能力を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的に探究しようとする態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の地球の活動について観察などを通して探究し、地球の構造や、プレートの運動と地殻変動や地震・火山などの地球の活動との関連や地球の大気と海洋の働きを理解する。 ・地球の現在に至るまでの過程について観察などを通して探究し、太陽系に誕生した惑星としての地球の特徴や、現在までの地球規模の自然環境および生物の変遷を理解する。また、地球の環境と人間生活との関わりについて理解する。

学習内容

前期 (4～9月)	後期 (10～2月)
第1章 地球のすがた 第2章 地球の活動 (レポート①②③) (前期中間考査) 第3章 大気と海洋 第4章 宇宙と地球 第1節 (レポート④⑤) (前期期末考査) (前期考査)	第4章 宇宙と地球 第2節 第6章 地球の環境 (レポート⑥⑦⑧) (後期中間考査) 第5章 生物の変遷と地球環境 (レポート⑨) (後期期末考査) (後期考査)

学習方法

デザイン・アート	キャリア週4日登校型	キャリア週1日登校型
副教材の学習のまとめを利用し、生徒に考えさせながら学習を進める。 1時間あたり副教材2ページのペースで進める。	副教材の学習のまとめを利用し、生徒に考えさせながら学習を進める。 1時間あたり副教材2ページのペースで進める。	副教材の学習のまとめを利用し、学習を進める。 1時間あたり、レポートの範囲を進める。

評価方法

デザイン・アート	キャリア週4日登校型	キャリア週1日登校型
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 (出席率等も含む) ・発問評価 (小テスト) ・レポート評価 ・定期考査 (4回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 (出席率等も含む) ・発問評価 (小テスト) ・レポート評価 ・定期考査 (4回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 (出席率等も含む) ・レポート評価 ・定期考査 (2回)

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
観察などを通して地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	地学的な事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断したことを、言語活動を通じて表現する。	地学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。

令和5年度 教科シラバス

教科	保健体育	科目	体育（2年次）
単位数	デ：2単位 キヤ：3単位	レポート	3回
教科書	現代高等保健体育(大修館書店)	副教材	ステップアップ高校スポーツ等

学習目標

<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p> <p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>

学習内容

前期（4～9月）	後期（10～2月）
<p>（第1回レポート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの発祥と発展 ・バレーボール・ダンス・体づくり運動 <p>（第2回レポート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動・スポーツの学び方 ・陸上競技・卓球・体づくり運動 	<p>（第3回レポート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かなスポーツライフの設計 ・バドミントン・体づくり運動

学習方法

デザイン・アート	キャリア週4日登校型	キャリア週1日登校型
<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、教科書・ルールブックを参考に、体育理論・実技に関する問題を解きながら知識を深める。 ・実技は、それぞれの時間を楽しみながら実践する。身体的・精神的に実技が困難な場合診断書を提出し認められれば、授業中の見学者用レポートで出席の代替えとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、教科書・ルールブックを参考に、体育理論・実技に関する問題を解きながら知識を深める。 ・実技は、それぞれの時間を楽しみながら実践する。身体的・精神的に実技が困難な場合診断書を提出し認められれば、授業中の見学者用レポートで出席の代替えとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、教科書・ルールブックを参考に、体育理論・実技に関する問題を解きながら知識を深める。 ・実技は、それぞれの時間を楽しみながら実践する。身体的・精神的に実技が困難な場合診断書を提出し認められれば、授業中の見学者用レポートで出席の代替えとする。

評価方法

デザイン・アート	キャリア週4日登校型	キャリア週1日登校型
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度（出席率等も含む） ・実技テスト ・レポート評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度（出席率等も含む） ・実技テスト ・レポート評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度（出席率等も含む） ・実技テスト ・レポート評価

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<p>運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解するとともに、目的に応じた技能を身に付けている。</p>	<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。</p>	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。</p>

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
必修	2	6	23	
教科書			副教材等	
工芸1				
学 習 目 標				
<p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。</p>				
学 習 内 容				
<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの観察について学習する。 ・構成について学習する ・使うことを意識した作品を制作する。 ・様々な素材に触れ、テクスチャーを学習し表現の幅を深める。 ・各領域の表現と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて学習を深める。 				
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書やワークシートなどを活用する。 ・授業に参加し、制作活動を通して内容の理解を深める。 ・調べ学習や発表を通して知見を広げる。 ・期限を守って作品を完成させ、併せてレポートも提出する。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
出席、授業態度、作品や提出物などで総合的に判断し評価する。				
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組もうとしている。 		
担 当 者 よ り 一 言				
<p>作品を制作し工芸のよさを感じ取り学習します。</p> <p>楽しく制作しましょう。</p>				

令和5年度 教科シラバス

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ
単位数	4単位	レポート	12回
副教材	MY WAY English Communication Ⅱ (三省堂)	副教材	MY WAY English Communication Ⅱ ワークブック STANDARD(三省堂) チャンクで英単語 Standard(三省堂)

学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり、伝えあったりする資質・能力を育成する。

言葉・文化・民族の多様性とその共存を基本とし、国際理解の精神の育成を図る。

学習内容

前期（4月～9月）	後期（10月～2月）
<ul style="list-style-type: none"> Lesson 1～Lesson 5、Reading① 形式主語・形式目的語、完了形、知覚動詞、使役動詞、関係代名詞、関係副詞（レポート①～⑥） 	<ul style="list-style-type: none"> Lesson 6～Lesson 10、Reading② 助動詞、完了不定詞、仮定法、分詞構文倒置、省略、強調構文（レポート⑦～⑫）

学習方法

デザイン・アート
<ul style="list-style-type: none"> 本文を読んだり聞いたりして内容を理解する。予習として単語や表現の意味を調べておく。 単語の意味の確認、発音練習、本文の音読練習を行う。 読んだ英文の内容に基づいて、自分の意見や考えを書いたり、発表したりする。 各課のまとめとして、単語・表現の小テストを行う。 『チャンクで英単語』を使って、語彙力を高める。

評価方法

デザイン・アート
授業態度（出席率等も含む）、発表内容、小テスト、課題提出、レポート評価、定期考査（4回）

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
外国語の音声や語彙、表現、文法など言語の働きについて理解を深め、これらの知識を適切に活用できる技能を身につけている。	話し手や書き手の意図などを的確に理解し、聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	言語やその背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

令和5年度 教科シラバス

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅱ
単位数	2単位	レポート	6回
教科書	MY WAY Logic and Expression Ⅱ (三省堂)	副教材	MY WAY Logic and Expression Ⅱ ワークブック (三省堂)

学習目標

英語学習の特質を踏まえ、話すこと（やりとり）、話すこと（発表）、書くことの三つの領域別に示される目標の実現を目指した指導と通して、伝える資質能力を育成する。

学習内容

前期（4月～9月）	後期（10月～2月）
<ul style="list-style-type: none"> Lesson 1～Lesson 5 題材：経験について、好きな場所を紹介、週末の予定、最新のものを紹介、印象深かった授業、贈り物について、日本文化を紹介、科学技術、社会状況と職業 (レポート①～③)	<ul style="list-style-type: none"> Lesson 6～Lesson 10 題材：世界や日本で有名な場所の紹介、火星について、旅行に行く友達との会話、悩み事を伝える、社会問題について、関心のある人物を紹介 (レポート④～⑥)

学習方法

デザイン・アート
<ul style="list-style-type: none"> 導入の会話を聞いたり読んだり質問に答えたりして、内容を理解する。 学習したことを取り入れながら、テーマに沿って会話をしたり、まとまった英文を書いたり（エッセイ）、発表（スピーチ・プレゼンテーション）をしたりする。 文法を学び、問題演習をして理解を深める。 各課のまとめとして、文法の小テストを行う。

評価方法

デザイン・アート
授業態度（出席率等も含む）、発表内容、小テスト、課題提出、レポート評価、定期考査（4回）

評価の観点

a. 知識・理解	b. 思考・判断・表現の能力	c. 主体的に学習に取り組む態度
外国語の音声や語彙、表現、文法など言語の働きについて理解を深め、これらの知識を適切に活用できる技能を身につけている。	情報や考えなどの要点、話し手や書き手の意図などを理解し、これらを活用して適切に伝えている。	言語やその背景にある文化に対する理解を深め、主体的自律的に外国語でコミュニケーションを図ろうとしている。

令和5年度 教科シラバス

教科	美術	科目	デッサンⅡ（2年生）
単位数	3	レポート	8回
教科書	光村図書「美術1」	副教材	アトリエハイデ「デッサンの基本」

学習目標

物をよく観察する力。観察した結果を表現する力。この二つを繰り返すことで、自分の表現の強みを見つける。また、集中力の向上や単なる技術の向上だけでなく、様々な「発見」をしながら表現の基礎力を身につけ、自分自身を向上していく。

学習内容

① 卓上デッサン(2回) ② 石膏デッサン ③ 細密デッサン ④ 人体デッサン ⑤ 想定デッサン
⑥ 組み静物デッサン ⑦ 自画像 ※順番が前後する可能性あり

学習方法

モチーフはもちろん、制作の全ての段階でよく見て確認すること。
集中して作品と向き合い、毎回の講評では自分自身を振り返ること。
自分の良い表現やクセ、他人の作品の良さも受け止めること。

評価方法

授業中に集中して制作を行っているか。課題に対して実直に向き合って制作しているか。
毎回きちんと出席しているか。
制作にあたっての準備や片付けまで丁寧に、計画的に行っているか。
レポートにおいてしっかりと自分を振り返り、自分の良さや次回へ向けての課題を見据えているか。

評価の観点

a. 知識・技能 b. 思考・判断・表現 c. 主体的に取り組む態度

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に取り組む態度
課題に準じた用具の使い方や、制作の手順など、課題のねらいをしっかりと捉えている。 用語や技法など授業内で説明があった物を理解し、正確に覚え使用できる。	レポートにおいて自己の意思を他者に伝えようとしているか。作品と文章での説明が一致している。 丁寧な表現で、課題の内容と相違がなく真剣に作品に向きかっている。	説明をよく聞き、学んだことを理解し、作品に積極的に取り入れている。 メモを取ったり、教科書やプリント、制作途中の作品の見直しなどを積極的にを行い、制作している。

令和5年度 教科シラバス

教科	美術	科目	立体構成
単位数	2単位	レポート	6回
教科書	高等学校 美術1(光村図書)	副教材	課題に応じて参考作品などを提示する。

学習目標

創造活動の基礎となる造形的な見方・考え方を働かせながら、表現素材の特性について、理解を深め、対象を観察して創意工夫しながら的確に表現するための思考力、判断力、表現力を身につける。

学習内容

素材の性質や制作過程を学習しながら、構想を練り、紙や粘土など様々な素材を使用した立体構成作品を制作、作品鑑賞、レポート課題を行う。内容として下記の課題を行う。

- 1、立体構成について。
- 2、紙の性質と立体構成
- 3、複合素材による立体構成
- 4、粘土の性質と立体構成 5、モチーフの模刻と構成(野菜・果物、立方体、無機物等)

学習方法

課題文を良く読み、要点を確認して課題制作を行う事。担当教諭の指導を受けながら、疑問点は質問し、作業を進めること。また制作は計画的に行い、締切は厳守すること。また、完成作品の振り返りや他者の作品の鑑賞を通して学習し、自身の成長に繋がるよう努めること。

評価方法

課題を正確に理解し、工夫して画面に表現しているか。アイデアスケッチの段階から主体的、計画的に制作しているか。時間内に制作を終了できるか、また作品を丁寧に美しく仕上げているか。アイデアスケッチ、完成作品、プレゼンテーション、レポートを基に下記の観点で評価を行う。

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に取り組む態度
立体表現における表現方法の基本的な効果、特性などを理解する。 制作、鑑賞を通して、立体表現への理解を深めている。	自分の視点やアイデアを基に構想を練り、表現方法や構造を創意工夫して、計画的に表現する。	発想や構想したことを基に第三者への分かりやすさを意識しながら、創意工夫して表現している。 立体表現に興味関心を持ち、主体的に制作や鑑賞に取り組んでいる。

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
選択	3	3	30	
教科書		副教材等		
高校生の美術2				
学 習 目 標				
<p>(1) アートに関する各領域表現の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。</p> <p>(3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。</p>				
学 習 内 容				
<ul style="list-style-type: none"> ・平面と立体を各領域の専門性について基礎から学習する。 ・平面絵画（油絵や水彩画）の基礎的な技法を学習する。 ・立体では彫塑を基に、石膏による型取りの技法を学びます。 				
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料などを活用する。 ・授業に参加し、制作活動を通して内容の理解を深める。 ・作品は期限を守って完成させレポートと併せて提出する。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
出席、授業態度、作品、提出物と期限厳守などで総合的に判断し評価する。				
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
<ul style="list-style-type: none"> ・対象の持つ造形的なよさや美しさを捉え、制作するための基礎的な技能を習得している。 ・学んだ技法や技術を表現に生かしている。 ・イメージや作品について言葉で説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを膨らませたり、構想を練ったり、計画的に取り組んでいる。 ・表現する際に、適した道具や表現技法を選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術文化や表現技法に関心を持ち、制作や鑑賞に主体的に取り組んでいる。 ・粘り強く制作に取り組んでいる。 		
担 当 者 よ り 一 言				
<p>ファインアートにおいて必要なことを学びます。</p> <p>ルールはありますが、各自のよさをおもいきり表現してください。</p> <p>大学受験においても必要になるのでしっかりと学習しましょう。</p>				

令和5年度 教科シラバス

教科	美術	科目	表現 I ・デザイン
単位数	3	レポート	8回
教科書	光村図書「美術1」	副教材	なし

学習目標

1年次に学んだデザインの基礎を活かしながら、計算されたデザイン制作、基本のデザイン用具の使い方を習得する。また、客観的に自分の作品を見ることや他者の作品の理解、依頼主の要望に合わせたデザインの考え方などを学ぶ。

学習内容

- ①お靴のベッドポスター制作（外部依頼）
 ②季節を色で表現する ③パターン構成 ④パッケージのリデザイン
 ⑤レタリング（5課題） ⑥POP制作 ⑦鑑賞 ⑧商品企画

学習方法

課題文を良く読み、課題にそった制作を行きましょう。
 デザインは相手がいる物なので、ラフや案出しなど、制作は順を追って行い、必ず担当教諭のチェックや指導を受け作業を進めましょう。
 また、締切は厳守。制作も決められた時間で完成する様に計画的に行い、完成作品を振り返り、自身の成長に繋がるよう努めましょう。
 家庭では、資料収集等を行ってください。

評価方法

担当者の話をよく聞き、手順や課題の内容に素直に答えているか。
 作品の提出締め切りを守り、丁寧に作品を仕上げているか。
 しっかりと制作の意図や、計画性を持って完成しているか。
 レポートの内容が出題された課題に即して、順を追って整理され、まとめられているか。

評価の観点

a. 知識・技能 b. 思考・判断・表現 c. 主体的に取り組む態度

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に取り組む態度
課題に準じた用具の使い方や、制作の手順など、課題のねらいをしっかりと捉えている。 用語や技法など授業内で説明があった物を理解し、正確に覚え使用できる。	ラフ、企画、レポートにおいて自己の意思を他者に伝えようとしているか。作品と文章での説明が一致している。 丁寧な表現で、課題の内容と相違がなく真剣に作品に向きかっている。	説明をよく聞き、学んだことを理解し、作品に積極的に取り入れている。 メモを取ったり、教科書やプリント、制作途中の作品の見直しなどを積極的にに行い、制作している。

令和5年度 教科シラバス

教科	美術	科目	表現1 (映像)
単位数	3単位	レポート	6回
教科書	美術1 (光村図書)	副教材	課題に応じて参考作品などを提示する。

学習目標

映像制作の過程を演習しながら作品構成の手法を身に付ける。映像表現の特性について理解を深め、伝えたい情報を整理して相手に伝える手法を学ぶ。自分の視点やアイデアを基に企画や演出など映像表現の構想を練ることができるようになる。

学習内容

映像の原理や制作過程を学習し、企画、制作計画にも留意して、編集ソフト等を使用した映像作品を制作と作品鑑賞、レポート課題を行う。内容として下記の課題を行う。

- 1、映像とは何か。映像の原理と基本構成
- 2、写真表現について
- 3、アニメーション作品の制作
- 4、実写映像作品の制作
- 5、映像作品の鑑賞

学習方法

自分が何を伝えたいのかを常に意識して、作品と向き合い、客観性を持ちながら制作に取り組むこと。制作は計画的に行い、締切は厳守すること。また、自分の表現を追求するだけでなく、他者の作品の良さも受け入れながら学習を行うこと。

評価方法

計画や制作の意図が明確か。集中して授業に取り組んでいるか。
映像制作を楽しみながら、見やすさや完成度を意識して制作を行っているか。
ワークシート、完成作品、プレゼンテーション、レポートを参考に下記の観点で評価を行う。

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に取り組む態度
映像表現の特性などを理解して、企画・撮影・編集を行っている。また作品を通して、表現したいことが明確である	自分の視点やアイデアを基に構想を練り、表現方法や計画を設定して制作を進めている。また映像表現の特性を活かした撮影、編集等の映像表現を行っている。	映像表現に興味関心を持ちながら制作を行っている。課題の意図を理解して、目的を達成のために表現に取り組んでいる。

1. 科目のねらい

創作・表現活動や美術の学習における作品制作や作品鑑賞あるいは芸術・美術に係る歴史的な変遷等も教科・科目上の専門的な知識上の分野として捉えるだけに止まらず、生徒一人ひとりが「今日生きて自己表現する」あるいは「他者の立場を理解し共感する」ための基礎的・基本的な能力の向上、発達に繋がるようにする。

2. 学習のための具体的な展開

教科書(美術1)の活用(特に、美術史、デザイン史、さらに写真史等)にあわせて国内外の表現者(画家、彫刻家あるいはデザイナー等として今日に至るまで)その存在を示している人々)それぞれが「生きて時代の背景や体験あるいは実績等を可能な限り具体的に解説、紹介する。これらの学習体験が、生徒一人ひとりの新たな表現活動の意欲や創造活動の基盤確立に繋がるようにする

そのため、必要に応じてレポート作成を課し、それに対する丁寧な添削をとおして生徒一人ひとりの意欲的な表現の工夫や新たな創作意欲の基盤整備に繋がるようにする。

3. その他

ア 講義では、教科書以外に必要と判断する場合には関連の文書を基に資料を作成し、受講者に配布する。

イ 地域(県内)に特に係わりの深い表現者として次の4名についてその活動の概要を紹介する。

良寛 (仏教者) 小山正太郎 (画家) 亀倉雄策 (デザイナー) 富岡惣一郎 (画家)

ウ レポート作成、提出に対する添削指導では、一人ひとりの大学進学のための受験指導にも配慮したものとする。特に文章表現と作家(画家)理解について「明確に伝わる内容となっているか」の視点から添削する。

エ この科目受講者の評価については、レポートの提出状況およびその内容あるいは授講態度等を総合的に判断する。

授業 実施日	授業内容	備考
4 14	オリエンテーション	
21	3.11後の表現(造形演劇(絵画))	資料配布
5 12	クロード・モネ (フランス・1840~1926)	資料配布
19	"	(レポート①: モネの世界) 6/9 提出
6 9	小山正太郎 (1857~1916長崎出身)	資料配布
16	"	
23	"	
30	ウインセント・ヴァン・ゴッホ (イタリア 1841~1927)) 資料配布
7 7	(清原玉 (日本 1861~1939)	
14	"	
21	"	(レポート②: 清原玉の世界) 8/25 提出
8 25	"	
9 1	パブロ・ピカソ (スペイン 1881~1973)	資料配布
8	"	
15	"	(レポート③: パブロ・ピカソの世界) 10/3 提出
22	現代における美術	日本の前衛 アンフォルメル 木の70年代 新表現主義 メタアートの 抽象表現主義
29	"	
10 3	"	
11 10	"	
17	富岡惣一郎 (1922~1994 高田出身)	資料配布
24	"	
12 1	"	
8	亀倉雄策 (1915~ 西瀬原出身)	資料配布
15	"	(レポート④: 亀倉雄策のポスター)
22	レオナルド・ダ・ヴィンチ (イタリア 1452~1519)	資料配布 12/22 提出
1 12	"	
19	良寛 (1758~1831 出雲崎町)	資料配布
26	"	
2 2	フランシスコ・デ・ゴヤ (1746~1828 スペイン)	資料配布
9	"	
16	"	[2月29日 授業終了]
3		

各講義時における授業進行状況

進行状況	講義内容	留意点
開始	<ul style="list-style-type: none"> 本時に中心となる画家・表現者についての人間としての活動の実績の概要について 本時に使用する資料についての説明 	<p>本時の講義内容に関心を抱いているか。(意欲)</p>
講義	<ul style="list-style-type: none"> 配布した本時の資料も生徒が朗読する。<small>(指定)</small> 生徒が朗読した資料内容についての説明と解説 本時内容のまとめ 	<p>受講者全員が指示された生徒の朗読と同じようペースで目読しているか。(集中)</p>
終了	<ul style="list-style-type: none"> 本時講義に臨んだ生徒全員の姿についての感想・印象 次回講義内容の概要説明 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が講義に参加していたか。 資料の内容が全体に伝わっていたか。(理解)

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
必修	1	6	12	0
教科書		副教材等		
なし		なし		
学 習 目 標				
<p>(1) 様々な美術館や施設を見学し、美術作品の鑑賞の仕方や社会的ルールやマナーを身につける。</p> <p>(2) 鑑賞を通して美術やデザインの社会にもたらす影響や貢献などを学び、各自の進路決定に生かす。</p> <p>(3) 多種多様な鑑賞を行うことで、一人一人の視野や思考を広げ、それぞれの作品に生かす。</p>				
学 習 内 容				
<p>① ②ギャラリーみつけ ③新潟県立近代美術館と東京インテリア家具店 ④新津美術館と新津植物園 ⑤新潟駅周辺美術館・ギャラリーなど ⑥長岡造形大学</p> <p>※上記以外にLHRで事前学習や映像鑑賞を実施する場合があります。また、実施の時期や内容なども変更する場合があります。</p>				
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を事前に調べる。 ・見学先で学芸員や担当者からお話を伺い、鑑賞をレポートにまとめる。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
出席、授業態度、作品、提出物・期限厳守などで総合的に判断し評価する。				
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にメモをとり、正しい鑑賞マナーを実施できているか。 ・事前学習及び現地での学びをレポート的確に表現されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場に応じて鑑賞しているか、相手の意図を肯定的に捉えて受け止めているか。 ・鑑賞で専門用語や言葉などを捉え、レポートに取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にメモをとり、正しい鑑賞マナーを実行できているか。 ・メモを取ったり、教科書やプリント、制作途中の作品の見直しなどを積極的に行っているか。 		
担 当 者 よ り 一 言				
<p>いろいろな作品や考え方にたくさん触れましょう 自身の視野を広げ、制作にも生かしていきましょう。</p>				